

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1592300048
法人名	株式会社 ぶなの木
事業所名	グループホーム ぶなの木
所在地	新潟県魚沼市井口新田673-1 (電話) 025-792-7007

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 12月 23日

【情報提供票より】(20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	20人 常勤 3人、非常勤 17人、常勤換算 11.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000~45,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)		無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有無
食材料費	朝食 250円	昼食 300円	
	夕食 300円	おやつ 50円	
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (20年 11月現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	8名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.6歳	最低 78歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほんだ病院、かみむら歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道沿いにあるが、裏には田園が広がり、遠くには八海山も臨める景観のよい場所である。近くには昔からの集落地域があり、また、田園の向こうには新興住宅も建ち始めている。法人代表者は長年地元で建設業を営み、地域の活動を通して住民とのより良い関係作りを心がけてきており、ホーム運営にあたっては地域との良好な関係が継続されている。ホームの開設にあたり、代表者は、どのような理念で行なっていくのかを職員と充分話し合った。その後も、代表者・管理者は日頃から職員との密なコミュニケーションを図り、職員からの意見や課題には一丸となって取り組んでいる。開設者・管理者・職員との良好な関係が構築されているため、開設から職員の離職はほとんどなく、利用者・家族にとっても安心できるホームとなっている。協力病院・歯科医院の往診や、訪問看護ステーションの定期的な訪問など医療との連携体制も確立し、利用者の急変にも24時間を通じた支援が得られる。災害時における地域との協力体制も運営推進会議で話し合っており、利用者がより安心して暮らせる運営体制づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果をふまえて改善に向けて検討した。「理念の浸透」では、ホームのパンフレットや、行政のホームページにある事業所紹介のコーナーを活用するなどして広く理解をしてもらえるように取り組んでいる。「地域との付き合い」は、運営推進会議の委員から地域の行事を知らせていただいたり、ホームの行事に積極的に誘いしたりと、交流が盛んに行なわれている。運営推進会議は2ヶ月ごとに確実に開催し、意見交換も活発に行われており、地域との協力関係が築かれている。「家族等への報告」では、面会に来られない家族にも定期的な電話連絡、ホーム便りの送付をしている。「食事支援」では、利用者の好みを聞きながら献立を作ったり、買物で食材を選ぶ機会を提供している。畑で取れた野菜を使った料理や、選択メニューなども取り入れ、より食事を楽しめるよう取り組んでいる。「入浴支援」については、本人のその日の状態や希望に合わせて臨機応変に対応し、本人の希望に合わせた介助方法を実施している。「急変や事故発生時の備え」については、1年に1回の救急対応の研修に職員全員が参加するようにし、「災害対策」では、2ヶ月に1回の避難訓練の実施とともに、運営推進会議で地域との協力体制を確認している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全ての職員が自己評価の取り組み、さらにユニットごとに話し合いをしてホームとしての評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	住民代表、民生児童委員、家族代表、行政担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2ヵ月ごとに開催している。ホームの現状報告と委員からのホームに対しての意見・提案が主な内容であり、会を重ねるごとに積極的な質問や提案が出されている。特に地域の行事予定を教えてもらったり、災害時の地域住民の協力について話し合うなど、会議を地域との関係構築に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が面会に来たときにホームの雰囲気について気付いたことや、意見を聞くようにしている。苦情受付窓口の明示や意見箱の設置も行っている。実際に寄せられた意見は職員全員に周知して検討し、改善に向けて迅速に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買物等の折りに近隣の方々に積極的に挨拶している。運営推進会議では委員の方から地域の行事を知らせてもらっており、参加している。また、地域からのボランティアを受け入れたり、ホームの納涼会にも地域の方を招待するなどし、交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前に法人代表者、管理者、計画作成担当者、主任等が話し合い、「笑顔・満足・まごころ」という理念を作成した。利用者へのケアや地域との関係づくりにおいて、この理念を大切に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所の中や掲示板に理念を掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。また、職員研修や職員会議でも理念の大切さを確認し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえようように取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示するほか、パンフレットへ記載したり、行政のホームページ内での事業所の紹介等を活用して、理念を知ってもらう取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買物等の折りに近隣の方々に積極的に挨拶している。運営推進会議では委員の方から地域の行事を知らせてもらっており、参加している。また、地域からのボランティアを受け入れたり、ホームの納涼会にも地域の方を招待するなどし、交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が自己評価の取り組み、さらにユニットごとに話し合いをしてホームとしての評価を行った。また、前回の外部評価結果をもとに、改善に向けて検討し、取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	住民代表、民生児童委員、家族代表、行政担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2ヵ月ごとに開催している。会を重ねるごとに積極的な質問や提案が出され、ホームの運営に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の福祉サービス事業所を集めて市が2ヶ月ごとに開催する「地域ケア会議」に参加し、ケアについての情報交換や研修を行っている。地域包括支援センターともこまめに連絡をとって、情報のやり取りをしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	市が実施する虐待防止の研修に参加し、職員全体に伝達しており、虐待に当たるような対応がないように職員間で確認している。また、地域包括支援センターからの在宅での虐待ケースについての相談にも対応し、必要に応じて協力する体制がある。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた時には必ず声をかけて利用者の日々の様子等話をしたり、日々の暮らしぶりがわかる写真を閲覧できるようにしている。面会に来られない家族にも定期的に電話で連絡をしている。また、年3回ホーム便りを発行している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時にホームの雰囲気について気付いたことや、意見を聞くようにしている。苦情受付窓口の明示や意見箱の設置も行っている。実際に寄せられた意見は職員全員に周知して検討し、改善に向けて迅速に対応している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議をはじめ、普段から職員が主任や管理者に相談しやすい環境づくりをしている。また、全職員を対象にホームのサービスについてのアンケートをとり、ホームが抱える課題を明確にして、改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者・管理者は日頃から職員の意見や提案を大切に、一丸となって取り組んでいる。開設者・管理者・職員との良好な関係が構築されているため、開設から職員の離職はほとんどなく、利用者との馴染みの関係ができています。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	認知症ケアの視点での、入浴、排泄、食事等の基本的なマニュアルが整備されており、職員が見やすいように各ユニットごとにファイルされている。また、不足と思われる点や変更があった場合は、適宜見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の重要性を認識しており、外部研修については常勤、非常勤に関わらず参加するように働きかけている。また内部研修も月に1回程度、全職員に参加を呼びかけ実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する地域密着型サービス事業所の会議や、魚沼・南魚沼地域、十日町地域のグループホーム連絡会に参加して、事例検討、情報交換、ホーム間の交換研修等を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニットの主任が職員から困っていることや悩み等を聞いたり、管理者や法人代表者と職員が面談できる機会を持っている。また、職員同士の交流のための親睦会を行ったり、職場環境を改善するために経営コンサルタントからのアドバイスをもらうなどして、職員のストレス軽減に取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族からホームに見学に来てもらうほか、入居前に職員が家に出向いていくなどしながら、本人との馴染みの関係を徐々に作るようにしている。また、本人が使っていた食器や家具、仏壇等を持ってきてもらい、家に近い環境づくりを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、普段の会話から本人の興味のあるものを引き出すようにしている。また、調理、掃除や野菜作りなど日常生活場面を通して、人生の先輩である利用者から教えていただくという気持ちをもちながら接している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族に面会に来てもらえるよう、行事に誘ったり、盆や正月に合わせて面会の働きかけをし、本人と家族との関係継続に努めている。また、外泊、買物、受診等にも家族に協力を依頼し、ホームと共に本人を支えてもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向については、普段の関わりの中から引き出している。しかし、それらの情報を積み上げる仕組みがなく、把握した意向・希望が記録として明確になっていない。		把握した意向や希望についても、フェイスシートに書き加えたり、センター方式のアセスメントシート等を活用するなどし、全職員が共有しやすいよう情報の集積や整理方法の工夫に期待したい。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりについて本人・家族から聞き取り、フェイスシートやアセスメントシートに記載して把握している。また、日頃の会話から把握した内容も記録としてきちんと残され、共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、本人・家族から要望を聞き取るとともに、日々の関わりの中から拾い上げた利用者の言葉や思い、職員の情報や気づきをふまえて、実行可能な計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は半年に1回、モニタリングと見直しが行われている。また、心身状態の変化に応じて随時見直しもされている。計画の見直しの際は、できるだけ多くの職員がサービス担当者会議に出席できるようにし、意見を出し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の事情に合わせ、受診、買物、外出、地域活動等を支援している。また、馴染みの理美容院を利用したい希望のある方には送迎を行なうなど、地域での生活が継続できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。基本的には家族に受診の同行をしてもらっているが、本人の状態や家族の事情によって職員が受診に付き添い、医師との連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援については、本人・家族に入居時に説明するほか、状態変化が見られた都度話し合いを行い、本人や家族の希望を踏まえて方針を共有している。かかりつけ医や訪問看護ステーションとも密に連携している。ホームでの支援の限界も明確にしており、本人の状態に応じて協力病院の関連施設で受け入れてもらえる体制もとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は鍵のかかる保管庫に保管されている。利用者のプライバシーや誇りを傷つけないように、特に入浴や排泄の場面では声かけにも配慮されている。同姓の人が多いこともあり、利用者の半数以上を下の名前で呼んでいる。		職員は利用者に温かくやさしく接している。しかし、同姓という理由から下の名前で呼んでいることが利用者本人にとってどうなのか、声かけや名前のおよび方について職員間で検討し合う機会も設けてほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方は、職員側の都合に合わせてではなく、一人ひとりの意向を聞きながら、入浴の時間や、買物・外出等、個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを聞きながら、畑で収穫された野菜なども利用しながら立てられている。また、利用者と共に買物に出かけて食材を選んだり、食事の準備・後片付けも一緒に行なうようにしている。時には好きなものを選ぶメニューにしたり、店屋物を取るなどし、食事が楽しみになるよう工夫している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見ながら誘導したり、ポータブルトイレを活用し、排泄の失敗を軽減するよう支援している。失敗してしまった場合も、本人を傷つけないような声かけや周囲への配慮がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後を入浴時間として設定しているが、その日の本人の状態、希望によって時間や日を柔軟に変更している。介助や見守りの方法も本人の希望に合わせている。また、1階と2階の風呂の形状が違うため、その日の気分でどちらの風呂にも入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、掃除、調理、食器の片付け等、本人のできることや得意なことに応じた役割を働きかけている。また、散歩で地域の人々との会話を楽しんだり、行事でのボランティアの人との関わりも楽しみにしている。		日々の生活の中でつい職員がやってしまう場面があるが、改めて、利用者ができることやできそうなこと、やりたいが言えないことなどを引き出し、利用者が役割や楽しみとして多様な活動を行えるようさらなる支援を期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者個々の希望に合わせた買い物や外出に対応している。また、季節ごとに利用者全員で外出して楽しむ機会も設けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束が利用者にも与えるダメージについて理解しており、普段のミーティング等で日常の関わりが身体拘束にあたらぬかどうか検討し、拘束のないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしておらず、玄関にセンサーによるチャイムを取り付けて出入りを察知し、利用者の安全を確保している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書と事故報告書が作成され、それぞれが見やすいようにファイリングされている。事故等が起きた場合は、その日のうちにミーティングで再発防止策を検討している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応、AEDの取り扱いの研修を年に1回行い、緊急時に備えている。また、訪問看護ステーションと24時間いつでも連絡が取れる体制を整えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	2ヶ月に1回自主訓練を行なうほか、年1回消防署の立会いのもとで避難訓練を行っている。運営推進会議でも災害の時に地域と協力し合うことを話し合っている。非常用発電装置も備え付けている。		
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域に栄養士資格を持つ方がおり、その方から年2回の指導を受け、献立の内容、栄養チェック、病気のある人への献立の工夫、食形態の検討等の相談をし、利用者個々の状態に応じた食事支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾が廊下や共用部分に施されている。居間には畳が敷かれている場所と、ソファが置かれている場所とがあり、好きなところで自由に過ごすことができる。2階部分の床には防音処理がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、利用者一人ひとりが自室に思い出の品々を飾ったり、使い慣れた家具や仏壇、カーペットや寝具、身の回り品を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせる環境作りをしている。		